

# 福祉フォーラム通信

Vol.13

発行日：2011年12月25日  
発行元：龍谷大学福祉フォーラム

## 福祉フォーラム2011

「東日本大震災—生き方の転換点 ~この“経験”から何を学ぶか~」を開催しました。

日時：2011年10月1日(土) 13:00~16:00 会場：本学瀬田キャンパス8号館103教室

講師：森まゆみ氏(作家・編集者) 石井光太氏(作家)  
高橋卓志氏(神宮寺住職・本学社会学部客員教授)

「福祉フォーラム2011」は「東日本大震災—生き方の転換点~この“経験”から何を学ぶか~」というタイトルで行われました。タイトルがそのまま示すように、東日本でおこった大地震、津波、原発事故が、西日本に住む私たちにとってどういう「経験」となるのか、またそこから何を学ぶのか、を考えようとしたものです。講師は、作家であり編集者でもある森まゆみさん、映像分野も手がける作家の石井光太さん、チェルノブイリへの医療支援でも知られる神宮寺住職の高橋卓志さんのお三方であり、高橋さんに司会をお願いし、森さんご講演、石井さんご講演、その後に鼎談、というかたちで進行しました。

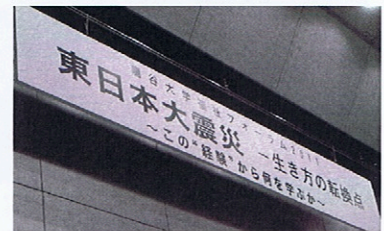
森さんは「東京での経験」に基づいたお話をされました。マスコミではほとんど報道されなかったデモの様子、人びとが自分にできる範囲で行っていたボランティア活動の様子などを、ご自身が撮られた映像を交えながら紹介し、震災・原発事故は「私たちの問題」であることを示されました。石井さんは地震直後に東北に入った「現地での経験」を話され、救援活動のこと、避難生活のこと、そしてご遺体のこと、など、自分の目で見、自分の肌で感じたことをそのまま語られました。それらを受けての鼎談では、「小さな神様」「一瞬の神様」というものについて話が深められました。それは、小さいかもしれませんが、また一瞬間かもしれませんが、困難な状況の中に現れる「尊い姿」をいった言葉です。高橋さんご自身の被災地支援を通して、また宗教者の立場からもその意味・意義を大いに認められ、「小さな神様」「一瞬の神様」は今回のフォーラムの内容を象徴する言葉となりました。

テーマ、講師、そして内容も、2011年開催の「福祉フォーラム」に適したものであったためでしょうか、フロアからの感想もとても多く寄せられました。最後に、それをいくつかあげ、お越しいただいた方への感謝の言葉にかえさせていただきます。

「とてもよかったです。自分にできることをしていこう、と改めて思いました」「小さな神様という言葉が印象に残りました。誰もその神様になれるのですね」。

### 参加者の感想

- ・改めて「報道が全てではない」と感じました。また、半年経って、関西の私たちの生活は何ら変わりませんが、今日の講演を聴いて、復興の道のりは本当に長く、簡単なものではない、私たちはそれを忘れてはいけないと思いました。
- ・ボランティアが入る前の被災地について、詳しく話を聞き、想像を超える現実があったと知りました。メディアでは流されない現実でした。
- ・被災地の現地のリアルな話を聞いて、時に耳をふさぎたくなりました。立場も考えも違う3人の方々の話を聴くことで、自分の視野が大きく広がった気がします。
- ・本日の報告、講演を聞いて、内容を次に伝えていくことも、一つの役割かと感じました。
- ・小さな神様、一瞬の神様という言葉にとっても共感しました。私は無宗教ですといいながら、その時その時で頼るものがあります。





## 第7回専門セミナー

前号に引き続き、専門セミナー「集団と出会う子どもたち 一子どもの育ちを支える専門職の仕事一」について報告します。このシリーズは学童期の子どもたちと向き合う専門職の学びと交流の場、という目的のもと今年で4年目を迎えました。前半2回は、発達障害についての理論や、発達障害の子どもを含む集団を支える専門職の役割について学びました。後半は、日々の実践を積み上げるための記録、実践者同士の交流と、より現場に則した内容へと展開されました。

### 第3講：「子どもの発達に気付くために一講義と演習一」

講師：中村 隆一 氏（立命館大学教授、大津市知的障がい者地域生活支援センター発達相談員）



日々の実践を記録していくことの大切さを否定する専門職はいないでしょう。同時に、毎日記録を積み重ねて行く困難さは、誰しもが感じるところです。講義では、より良い実践につながる記録の取り方について、具体的な事例やドキュメンタリー映像を題材に学びました。

その場では気がつかないことも、記録を通じて見えてくることがあります。実践の「場面」についての自分の考えや、その時感じた根拠を記録しておくことで、あとあとまでその場面を検証することが可能になります。また、中村氏は、「実践を言語化」していくことの大切さと同時に、状況を安易に専門用語に置き換えて理解してしまうことの危険性についても指摘されました。

体育の日の前日、連休中での講座でしたが、講師の熱意と受講者の熱気の感じられる、良い学びの時をもつことができました。

#### 参加者の感想

- 普段の自分が、どういう視点で子どもを見ているかなど、反省点や、こうしようと思うことがたくさんありました。記録を大事にし、子どもの心に寄りそえるように関わろうと思いました。
- 記録は大事であるということはよくわかっていながら、毎日保育日誌を書くのは正直手間がかかります。ふり返った時に読める日誌を書くためにこの講座のことを思い浮かべながら、日々すすんでいけるように書き方も考えてみたいと思います。VTRなど、目にみえる内容でとてもわかりやすい講座でした。

### 第4講：「集団のなかの子どもたち一講義と実践の交流一」

講師：白石 正久 氏（龍谷大学社会学部教授、福祉フォーラム副会長）



講義では、子どもたちが本来にもつ発達の力が、社会の側の要求と価値を押し付けられる中で弱められていくこと、だからこそ、大人主導ではない子どもが主体でいられる学童保育が、今日大切な役割をもつことが指摘されました。

後半は、講師から提示された事例を題材に、グループ討議が行われました。活発な討議のもと、学童保育、小学校、保育所等、それぞれの場面での実践が共有されていく様子は、シリーズを通じた参加者の積極的な学びの姿勢を反映しているように感じました。

講義の冒頭では、大津で生まれ受け継がれてきた「障害をもつ子どもへの実践」「発達保障」の簡単な歴史についてもふれられました。最終講にあたり、この地で子どもの育ちについて学ぶ意義についても、再確認することができました。

5月から約8カ月間の開講期間の長いシリーズとなりましたが、最後まで熱心に参加いただいた受講者の皆さまに、この場を借りて敬意と感謝を表します。

#### 参加者の感想

- 基本的な発達のすじ道について確かめあいながら、実践討議も含まれていてとても学ぶことがたくさんありました。
- 集団討議の事例検討で、自分一人だと1つの考え方ですが、20人いれば20通りの意見があり財産になりました。

#### 第9回 共生塾のご案内

「福島の現実一地域が「壊れる」と何が起ころのかー  
～避難所・仮設の暮らしと支援の実態、コミュニティの今～」

日時：2012年2月25日(土) 13:00～15:20  
会場：龍谷大学瀬田キャンパス

#### 第8回 専門セミナーのご案内

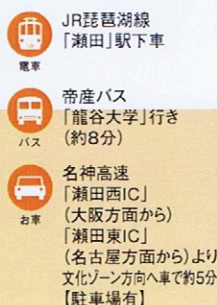
「調査票調査(アンケート調査)の技法をマスターする」

日時：2012年3月3日(土) 10:00～16:50  
会場：龍谷大学瀬田キャンパス

#### お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局(REC滋賀内)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5  
TEL: 077-543-7744 FAX: 077-543-7771  
E-mail: r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp  
ホームページ: <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>



龍谷大学瀬田キャンパス

